

● ライフサイクルアセスメント  
**L C A** について

**1 LCAとは**

- 製品の資源採取から原材料の調達、製造、加工、組立、流通、製品使用、さらに廃棄にいたるまでの全過程（ライフサイクル）における環境負荷を総合して、科学的、定量的、客観的に評価する手法です。この手法は「製品」以外の、例えば「サービス」、「システム」などの目にみえないものでも対象にすることができます。



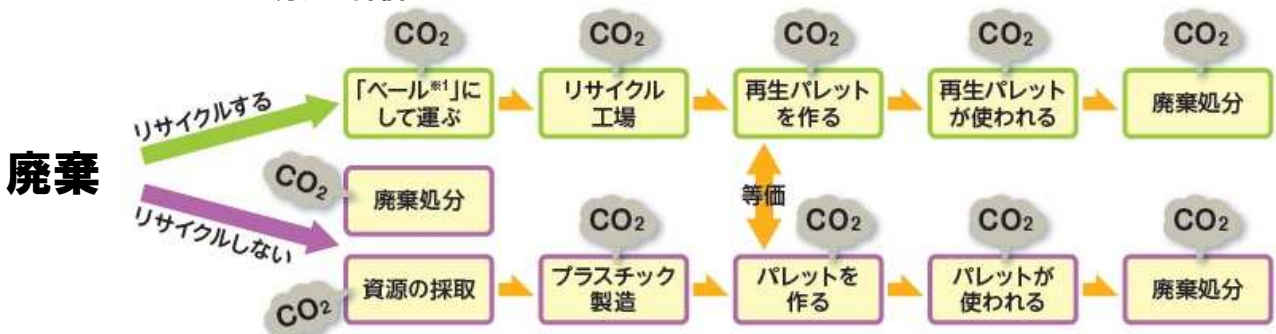
※ 冊子『プラスチックリサイクル 8つのはてな』P5より抜粋

LCA = 製品のライフサイクル全体で発生する環境負荷を考えること

**2 LCAで「リサイクル」を考える**

- 「リサイクルする」場合と「リサイクルしない」場合の環境負荷計算は、LCAの手法で考えます。廃プラスチックとして排出されてから、リサイクルされ、再生品が使われて再び廃棄されるまで、それぞれの工程の環境負荷を算出します。

▼LCAによるリサイクル方法の評価



※ 冊子『プラスチックリサイクル 8つのはてな』P17より抜粋

- 「リサイクルしない」場合は「廃棄処分」のみを見てしまい、「リサイクルする」場合よりも環境負荷がかかっていないように捉えてしまいがちです。しかし、「リサイクルする」場合、再生された製品は、新品の代役となることで、資源節約や環境負荷低減に貢献しています。つまり、もしも再生品が作られなかったら、代わりに新品が作られる、と考える必要があります。そして、この両方を比較することをLCAによる評価といいます。

### 3 LCAの視点を持つ

- 私たちが使用しなくなったプラスチック類は「資源プラスチック類」として廃棄され、リサイクル工程へと流れています。このことから、「プラスチック＝リサイクルするもの」という意識が、町民に根付いています。
- 廃棄物処理検討委員会ではこれから、久喜市の新ごみ処理施設の利用に向けて、宮代町のプラスチックごみのリサイクル方針を検討します。1と2で説明したように、リサイクル方針を検討する際には、廃棄物の処理過程の一部分のみではなく、LCAの視点から、もののライフサイクルを総合的に考えていくことが大切になります。

#### ※参考・引用資料

一般社団法人プラスチック循環利用協会

「プラスチックリサイクルの基礎知識」

「プラスチックとリサイクル 8つの「?（はてな）」」